作成（2024 年度）

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	小林正実
所属機関名	工学部建築学科
職位	准教授
在籍年	１３

教育の責任

建築学科の構造系スタッフの一員として、木質構造、耐震設計、構造力学Ⅳ、構造材料実験等の授業を担当している。ゼミ教育においては、構造系を専攻する学生を毎年、７名程度、受け入れ、主に木造の耐震に関する実験研究を指導している。以上を通して、建築構造技術者の養成に携わっている。

教育の理念

建築構造教育は、設計や計算の方法を修得することを目的とすることが多く、内容がテクニカルな作業になりがちとなる。そうではなく、方法の基になっている基本的な考え方から理解させ、何をやっているかをわかった上で取り組んでもらうよう心掛けている。

また、説明をするだけでなく、演習、実験、学外見学等を通して、理解を深め、体感や五感により把握させ、身につくよう工夫している。

教育の方法・方針

・計算方法や公式の説明の際には、その基になっている基本的な考え方から教えるよう心掛けている。
・担当の５つの講義において、毎回、小演習課題を課し、翌回に採点返却し、双方向性を確保するよう努めている。
・構造材料実験において、人力加力や、計測機器を使用しない変形計測をするなど、試験体の挙動を、体感により把握できるような実験を実施している。
・実際の現場を知ってもらうため、貸切バスによる工場見学を実施している。

教育の成果

・講義、実験科目とも、授業アンケートにおける満足度の評価は、毎年、概ね良好である（１，２の評価はほとんどない）。
・担当科目は、ほとんどが選択科目であるが、どの科目も、毎年、６０名程度の受講者で、途中の履修取消も数名であり、不合格は極めて少なく、学科の多数の学生の建築構造教育に貢献できていると自負している。

今後の目標

定員割れと 18 歳人口の動向から見て、今後は、学生募集が最大の課題となる。これに貢献できるよう、高校内ガイダンスを充実させ、また、高校での学びの把握に努め、そこからのシームレスな高等教育を目指し、高校側から見て魅力的に思える教育改善・開発を心掛ける。

根拠資料

・授業アンケート
・教材（配布資料、パワーポイント資料）
・バス見学計画書、学外活動結果報告書